



平成27年度 第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成27年5月～6月)のポイント

(1) 概要：

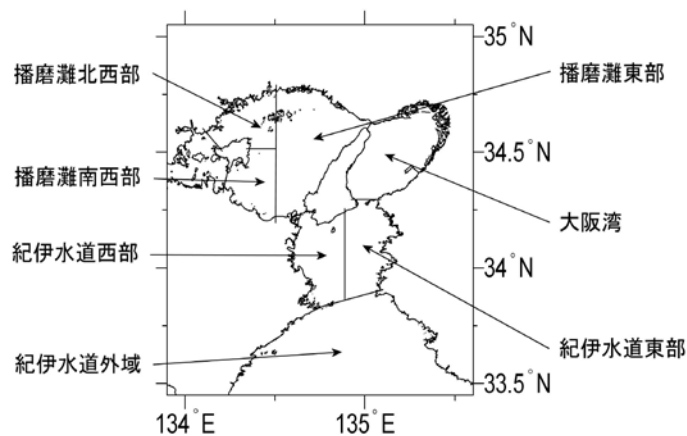
シラスは平年を下回る。

(2) 海域別：

紀伊水道東部のシラスは平年並みであった前年を下回る。

紀伊水道西部、播磨灘南西部のシラスは不漁であった前年並み。

大阪湾、播磨灘東部・北西部のシラスは好漁であった前年及び平年を下回る。



問い合わせ先

国立研究開発法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所

担当：吉田、北村

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://www.fra.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>

平成27年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2015年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部のシラスは平年並みであった2014年を下回る。

紀伊水道西部、播磨灘南西部では不漁であった2014年並み。

大阪湾、播磨灘東部・北西部では好漁であった2014年及び平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～図3）、特に断りがない場合、1985年～2013年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2014年1月～2015年4月）及び今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2014年の漁獲量は前年の79%、平年の59%であった。2014年5月～6月の漁獲量は前年の111%、平年の86%であった。2015年春季シラス漁の開始が例年より少し遅れており、4月21日から本格的に始まった。

紀伊水道西部（徳島県側）では2014年の漁獲量は前年の62%、平年の46%であった。2014年5月～6月の漁獲量は前年の86%、平年の47%であった。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2014年の漁獲量は前年の74%、平年の89%であった。2014年5月～6月の漁獲量は前年の107%、平年の148%であった。

大阪湾（大阪府）では2014年の漁獲量は前年の100%、平年の139%であった。2014年5月～6月の漁獲量は前年の106%、平年の133%であった。

大阪湾（兵庫県）では2014年の漁獲量は前年の95%、平年の128%であった。2014年5月～6月の漁獲量は前年の103%、平年の131%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2014年の漁獲量は前年の106%、平年の94%であった。2014年5月～6月は前年の283%、平年の267%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2014年の漁獲量は前年の42%、平年（1989年～2013年の平均値）の28%であった。2014年5月～6月の漁獲量は前年の68%、平年の12%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2014年の漁獲量は前年の115%、平年（2000年～2013年の平均値）の183%であった。2014年5月～6月の漁獲量は前年の112%、平年の162%であった。

2015年の春季シラス漁は4月22日現在、紀伊水道を除いて始まっていない。

(2) 日向灘～紀伊水道での産卵量

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2015年1月～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は14兆粒（前年比10%、平年比6%）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に26粒/m²（前年比2601%、平年比81%）、3月に22粒/m²（前年比63%、平年比4%）であった。仔魚密度は2月に6個体/m²（前年比1339%、平年比66%）、3月に5個体/m²（前年比112%、平年比16%）であった。紀伊水道での卵密度は2月に前年同様0粒/m²（平年0.02粒/m²）、3月に2粒/m²（前年比260%、平年比80%）であった。仔魚密度は2月に前年同様0個体/m²（平年0.1個体/m²）、3月に1個体/m²（前年比26%、平年比20%）であった。

(3) 今後の見通しの説明 (2015年5月～6月)

シラス (本年春季発生群)

4月22日現在、シラスの来遊環境に影響を与える黒潮流路は、都井岬と室戸岬でやや離岸、足摺岬と潮岬で接岸している。海面水温衛星画像によると、種子島南東に小さな蛇行流路が形成され始めている。各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産総合研究センター運用の海況予測システム FRA-ROMS の予測結果を併せて考慮すると、室戸岬～潮岬は5月～6月に接岸した黒潮流路を示すと推測される。

紀伊水道の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に依存する。4月22日現在、黒潮は潮岬で接岸し、5月～6月も接岸傾向が持続すると予測されているので来遊環境は概ね良いと考えられる。しかし日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2014年及び平年を下回っている。加えて、周辺海域で漁獲されているカタクチイワシ親魚は2014年と比較して漁獲量は少なく小型であることから、紀伊水道東部では平年並みであった2014年を下回ると予測される。例年、本漁期を通して漁獲のある紀伊水道西部においてもシラスの来遊環境は概ね良いと考えられる。しかし、春季のシラス漁獲量と関係が深いと考えられる日向灘、紀伊水道及び紀伊水道外域におけるカタクチイワシ親魚の漁獲量や卵仔魚量から判断すると、紀伊水道西部では不漁であった2014年並みと予測される。

大阪湾の春季シラス漁は主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び来遊環境に依存する。現在、黒潮は潮岬で接岸しており、5月～6月も引き続き、接岸傾向が持続すると予測されているので来遊環境は概ね良いと考えられる。しかし、紀伊水道での本漁期の漁獲量は平年を下回ると予測されている。また日向灘～紀伊水道外域の1月～3月の合計産卵量は2014年及び平年を下回っており、カタクチイワシ親魚も少ないと考えられることから、大阪湾では好漁であった2014年及び平年を下回ると予測される。

播磨灘の春季シラス漁も主に日向灘～紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道や紀伊水道外域でのシラス現存量、及び来遊環境に依存する。播磨灘東部では大阪湾と同様の理由から好漁であった2014年及び平年を下回ると予測される。播磨灘南西部や北西部でも大阪湾と同様の理由から不漁であると考えられ、播磨灘南西部では不漁であった2014年並み、播磨灘北西部では好漁であった2014年及び平年を下回ると予測される。

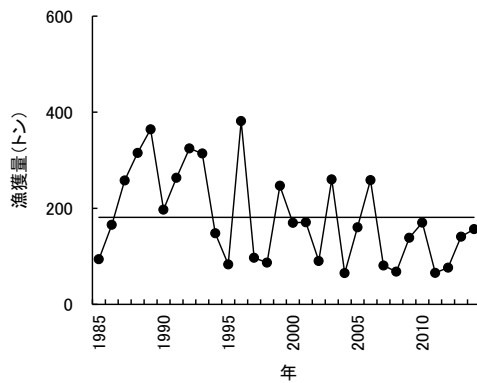
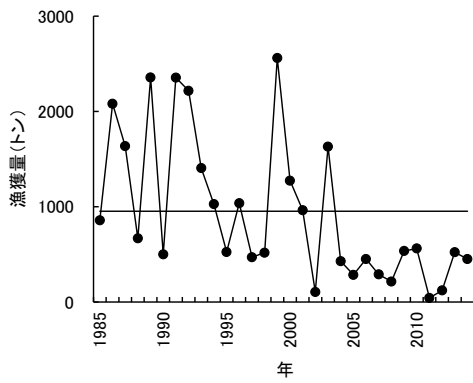


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

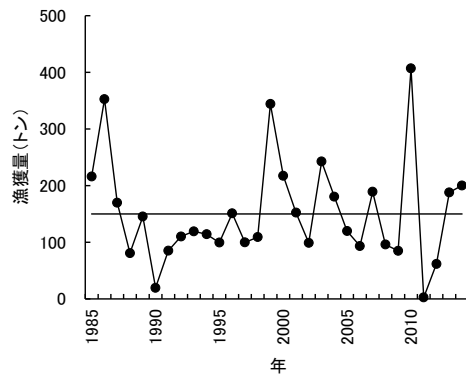
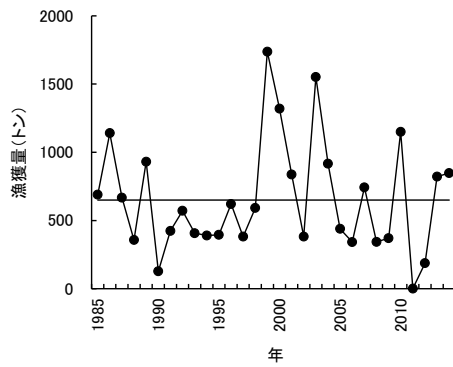


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

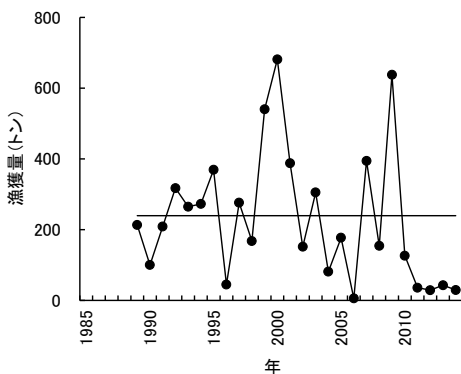
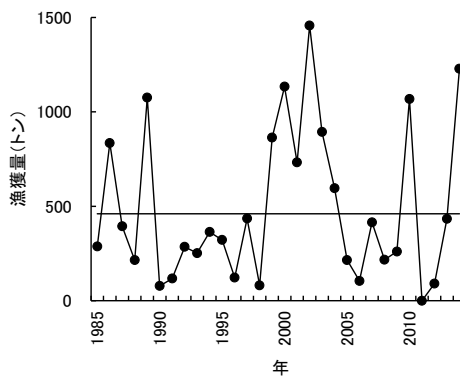
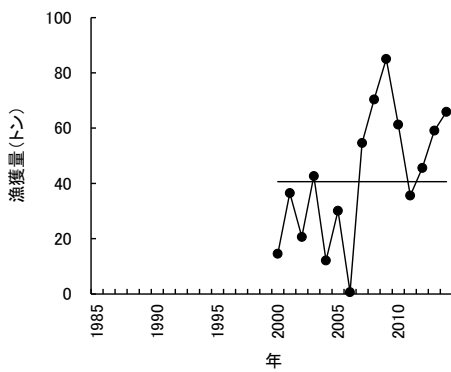


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における5月～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値）

参 画 機 関

| | |
|--|---|
| <p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p> | <p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>国立研究開発法人 水産総合研究センター 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所</p> |
|--|---|